

NHK海外情報発信強化に関する検討会（第2回）議事要旨

1. 日時

平成26年10月14日（火）15時00分～17時00分

2. 場所

総務省7階 省議室

3. 出席者

（1）構成員

多賀谷座長、青山構成員、岡構成員、坂村構成員、鳶構成員、野上構成員、原構成員、平澤構成員、マリ構成員、水越構成員、山本構成員

（2）オブザーバ

新居広報文化外交戦略課長（外務省）

（3）プレゼンテーション

坂村構成員、水越構成員、赤阪理事長（公益財団法人フォーリン・プレスセンター）

（4）総務省

高市総務大臣、長谷川総務大臣政務官、桜井総務審議官、福岡大臣官房長、今林大臣官房総括審議官、安藤情報流通行政局長、渡辺大臣官房審議官、樫総務課長、長塩放送政策課長、湯本情報通信作品振興課長、金澤国際放送推進室長、吉田放送政策課企画官

4. 議事要旨

（1）高市総務大臣挨拶

- ・ 日本のプレゼンスを高めること、日本の素晴らしさをしっかり発信していくこと、正しい情報を諸外国の方々に知っていただくということは、日本の国力を強めることにもなり、対日投資の促進や多くの観光客に日本にお越しいただくことにもつながっていくものとする。
- ・ 現在の英語のみの発信を、理想を言えば国連の公用語全てで発信できるような形が作ればよい。
- ・ 日本国内での放送もやることで、訪日外国人にも見ていただけるし、多くの日本人が見ることに意義があると考えている。

（2）長谷川総務大臣政務官挨拶

- ・ 近年、我が国から世界へ向けた情報発信の重要性はますます高まっており、諸外国においても、それぞれの情報発信を強化している状況にある。

- ・ NHKのテレビ国際放送は全世界をカバーする我が国唯一の放送として一層充実強化することが必要と考えている。
- ・ 世界に日本ブランドをいかに効果的に情報発信していくかの戦略作りが必要と考えている。

(3) 国際放送の課題等について説明

①坂村構成員

坂村構成員より、資料に基づき、NHKワールドTVの抱える編集面・戦略面での問題点等について説明が行われた。

②水越構成員

水越構成員より、資料に基づき、国際放送のターゲットの絞り込みに関する戦略等について説明が行われた。

③公益財団法人フォーリン・プレスセンター 赤阪理事長

赤阪理事長より、資料に基づき、情報発信力の強化に向けたコンテンツ作成・発信の強化、人材育成等の重要性等について説明が行われた。

(4) 意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

【野上構成員】

- ・ キャスターの流ちょうな英語とレポーターの英語には差があるように感じるため、レポート部分については言語を日本語にして英語の字幕をつければよいのではないか。
- ・ 日米防衛ガイドライン中間報告の報道を例に挙げれば、NHKは日米代表が並んで座っている映像を用いた紋切り型の報道、CCTVは軍事演習等の目を引く映像を使用していた。このような差もNHKがCCTVに勝てない要因ではないか。
- ・ NHKとしてどういった人が見ているのかというイメージを持っているのか。ターゲットについて調査した資料があれば次回会合にでも提供いただきたい。

【原構成員】

- ・ 外国のニュースに関しては現地レポーターを活用することはとても良いこと。
- ・ 英語の字幕をつける案もよいと思うが、字幕の場合、画面をずっと見ていなければならない。自分がニュースを見る際には、画面を見ずに耳で聞いていることが多い。
- ・ ターゲットを見極めることは難しい。テレビでの情報発信も大切だが、ネットにおける情報発信も大切。

【髙構成員】

- ・ 日本に関する発信とアジア全体を総括するようなニュースのどちらを柱にするかということは案外番組編成で重要ではないか。日本発信の国際ニュースが日本だけでなくアジアを全体的にカバーしているという特色を日本のコンテンツの強みにしてはどうか。
- ・ コンテンツに関しては日本の地上波やBSのものをもっと多用してもよいと思う。文化面については地上波やBSで流れているものに字幕をつけて流すという形にしてはどうか。
- ・ 今後、どのくらいの期間かけて視聴者を増やしていくのか。1～2年で視聴者を大幅に増やすのか、それとも長い時間かけて日本への信頼を得ていくのか、ということを検討する必要がある。視聴対象をはっきりさせたほうがいい。アジアのニュース全体を世界に発信しているメディアはほとんどないのではないか。

【青山構成員】

- ・ 字幕をつける案については確かに画面を見続けていなければならないという問題はあ
るが、ネットとの両立を図るという点では重要な提案だと考える。
- ・ NHKには表現の自由、報道の自由が確保されていることがCCTVと決定的に異なる
点であり、そのことを世界に示すことにも意味がある。
- ・ その上で、NHKの主体的自由を確保しつつ、この検討会が設置された背景には、中
韓によって間違った史実が反日工作として世界に喧伝されていることに対し日本がフ
ェアにして有効な反論をできていないことがある。そこを見失わずに議論すべきであ
って、技術論だけではなく中身、コンテンツについても議論すべきだ。

【マリ構成員】

- ・ 日本の国際放送は戦略がないように感じるため、この点をどのようにしていくかが今
後の課題。
- ・ 他国がすでに深くやっているものを掘り下げるのではなく、もっと日本の文化や政治
を見せて日本がもっと世界から好意を持たれるような番組構成にしていくべき。
- ・ キャスターやレポーターに必ずしも外国人を利用しなければならないということでは
なく、英語ができる日本人も活用していくべき。
- ・ CCTVをライバル視するのではなく、日本の放送局としての戦略を考えるべき。そ
の際、外国の方が日本にどのような興味を持っているかは重要。
- ・ 日本の質の高い番組をセクションして、もっと世界に発信すべきだと考える。NH
Kが放送している番組の質の問題ではなく、世界に向けて配信する番組のセクション
に問題があると感じている。
- ・ NHKの海外特派員が帰国した際に、もっと活用できる場を作るべき。
- ・ 日本人が考える日本の素晴らしさと外国人が考える日本の素晴らしさというものは異
なるため、リサーチを行うことが重要。

【平澤構成員】

- ・ コンテンツの海外展開について韓国は国策として進めており、日本のものに比べて
10倍以上露出している。
- ・ ポップカルチャーも含めどのようなものを世界に出していくのかということ、日本
の産業全体という切り口からも議論していくべき。
- ・ エンターテインメントコンテンツをショートでいいので世界へ発信し、深い部分につ
いてはネットを利用し連動させていくのが良いだろう。
- ・ ターゲットの絞り込みや番組編成というものが非常に重要。誰がどのように番組を選
択しているのかという点を明らかにする必要がある。

【岡構成員】

- ・ 日本のコンテンツの海外展開は大変遅れていると感じている。現在、ASEANの国々
への番組提供を進めているが、ビジネスとして黒字化しないという問題もある。そのた
め、総務省の予算もつけていただき、民放各社一体となって進めている状況。
- ・ 方法論としては、日本語で流し放送国の言語の字幕をつけることが一般的だと考える。
日本語に関心を持ってもらえることもあり、更にコスト削減にもつながる。

- ・ 世界規模であるNHKワールドをアップグレードしていくにはかなりのコストがかかる。国の関与が必要であり、どのように国が関わるのか議論するべきである。

【多賀谷座長】

- ・ アジア向けと全世界向けでは視点で異なるが、1局しかない中でどう戦略的に考えていくかという点が重要。

【坂村構成員】

- ・ 多彩なコンテンツをネットとどのように融合させていくかが重要。字幕については、海外のホテルのロビーでは音声が出ておらず字幕が必要となる場面もあり、障害をお持ちで音が聞きづらいという方にとっては非常に良いもの。逆に字幕データなら音声に変換もできる。
- ・ コンテンツについては、日本のアニメ等、興味があれば海外において現地の有志が翻訳して字幕を付けてネットに上げているものもあり、そういうのを多くの若者が見て、日本のファンとほぼリアルタイムで盛り上がっている。
- ・ 海外においてNHKワールドTVがどう思われているのかという調査をNHK自らではなく、総務省等の他の組織が行うべき。
- ・ 特派員の数が減ると同時に、外国特派員のレベルが下がってきているように感じる。日本の報道をそのまま横流しという感じもあり、だからこそ日本の発信が大事になっている。
(→赤阪理事長：一概に言うことは難しいが、長年日本特派員として活躍している人や配偶者が日本人の人もおり、知日派が多いと感じる。)

【水越構成員】

- ・ ローカルの主要メディアやネットも含めた広い意味でのメディアミックスというものを考えた上で、国際放送のあり方を考えていくべき。